広島県立広島叡智学園中学校・高等学校 学校運営協議会の会議録

令和５年度第３回学校運営協議会を次のとおり開催した。

開催日時	令和６年２月５日（月） 13 時 50 分から 15 時 10 分まで	開催場所	会議室
出席委員	人数：７人 委員氏名（役職） 谷川　正芳氏（大崎上島町長） 森下　秀月氏（大崎上島町商工会事務局長） 坪谷ニュウエル郁子氏（東京インターナショナルスクール理事長）※オンライン参加 田頭　吉一氏（国立大学法人鹿児島大学副学長）※オンライン参加 草原　和博氏（広島大学大学院人間社会科学研究科教授） 三浦　義雄氏（PTA 会長） 福嶋　一彦（校長）		
会議の概要	○自己評価シート（年度末評価）の説明 本校から、学校経営計画の項目に従い、国際バカロレア、主体的・対話的で深い学び、進路指導、寮生活、働き方改革等、本校の教育活動の自己評価について説明を行った。 ○各委員からの発言要旨 各委員からは、次年度の取組に係る期待も含め、次のような御質問・御意見をいただいた。 （御質問） ・「対話的な学び」「将来のリーダー」の定義をどのように捉えているか。 →単に意見を交わすというのでなく、クリティカルに問うことで対話の質を高めることを目指している。 →真のグローバルリーダーには、仲間をぐいぐい引っ張るだけではなく、チームを前に進めるために主体的にアクションを起こす、時にはサポート役に立ちながらバランスよく事を進めるという資質が必要だと捉えている。 ・寮生活支援において、自己評価が厳し過ぎるように感じる。何か理由があるか。 →「相手の立場になって」ということを考えた時、とりわけ留学生との関係においてまだまだ言語の壁がある。寮生活における日本語の使用を工夫したいと考えての評価とした。 ・最初の DP ファイナルに向けて、他の IB 校との連携等の状況はどうか。 →模擬試験に関する内容の生徒への周知方法や科目登録の手続き等、細かいことも含め、他の先進校に確認しながら、早めに計画を立て準備を進めている。 （御意見） ・完成年度を迎えるに当たり、今一度「叡智」とは何かを学校全体で問い、独自の「校風」を醸成していってもらいたいと期待している。 ・地域は子供たちの育ちを温かく見守っているし、子供たちが地域を元気にしてくれる側面もある。今後も地域をより頼ってほしい。 ・IB 生に必要なパーソナルケアが順調にできていると感じる。 ・５年目が終わり、基礎は出来てきている。全寮制だからこそ継続できる文化、新しい文化の創造に繋いでほしい。 ・次年度の集大成に向け、海外大学、国内大学への進学実現に係る指導や支援を果敢に進めていってもらいたい。 ・先日 PTA で行った保護者によるアンケートに、「HiGA での学びが本人に合っているようでよかった」「仲間と強くつながれて嬉しい」とあった。今後も保護者ができることを協力していきたい。 ・様々な場面で改善が進んでいるように感じる。本校での実践をさらに他校にも共有してほしい。 ・今回冒頭にあった生徒による「HiGA 公式グッズの企画書」のプレゼンからは、学びから得られたアートの力（デザイン力）を感じた。学びにヒューマニティも欠かせない要素である。アカデミックディシプリンとの融合を今後も目指していってもらいたい。 以上、委員から貴重な御意見等をいただいた。本校としては、いただいた御意見をもとに、次年度の学校運営に活かしていく所存である。		
次回開催予定日	令和６年６月下旬		

※　「概要」欄については，協議の経緯は簡潔にし，協議の結果が分かるように記載すること。